

平成22年度 学校保健統計調査結果報告（広島県分）の概要について

平成23年3月28日
統 計 課

1 調査の概要

この調査は、幼児、児童及び生徒の発育状態及び健康状態を明らかにすることを目的に文部科学省が昭和23年から毎年実施しているものです。

この速報は、広島県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、満5歳から満17歳までの幼児、児童及び生徒の一部を抽出し、発育状態調査と健康状態調査の2調査について、平成22年度の基本的事項をまとめたものです。

2 調査結果の主な特徴

- (1) 身長（平均値）は、男子（6歳）女子（7歳、11歳）の各年齢で調査実施以来の最高値となっています。
- (2) 疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても、「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高くなっています。
- (3) 「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても前年度より下回っており、全国と比較しても下回っています。

3 調査結果の概要

(1) 発育状況調査

ア 身長

身長（平均値）は、男子6歳、女子7歳、11歳で調査実施以来の最高値となっています。

各年齢間の身長差をみると、男子は11歳～12歳の7.4cm、女子は10歳～11歳の7.2cmが最も大きくなっています。

親世代である30年前の昭和55年度調査と比べてみると、最も差のある年齢は、12歳男子で2.8cm、10歳女子で2.1cmと親の世代より高くなっています。（表1）

表1 年齢別身長の平均値

（単位：cm）

校種・年齢	男 子						女 子					
	平成22年度			昭和55年度			平成22年度			昭和55年度		
	A 広島県	前年差	全 国	B 広島県	(A-B)	A 広島県	前年差	全 国	B 広島県	(A-B)		
幼稚園	5歳	110.4	0.2	110.7	110.4	0.0	109.8	0.2	109.8	109.2	0.6	
小学校	6歳	※116.5	0.1	116.7	115.2	1.3	115.4	0.1	115.8	114.1	1.3	
	7歳	121.9	0.3	122.5	120.7	1.2	※121.7	1.0	121.7	119.9	1.8	
	8歳	127.5	△ 0.3	128.2	126.5	1.0	127.2	0.1	127.4	125.7	1.5	
	9歳	133.4	0.6	133.5	131.9	1.5	132.7	△ 0.7	133.5	131.1	1.6	
	10歳	138.4	0.2	138.8	137.1	1.3	139.7	0.1	140.2	137.6	2.1	
中学校	11歳	144.5	0.3	145.0	142.2	2.3	※146.9	0.5	146.8	144.9	2.0	
	12歳	151.9	0.4	152.4	149.1	2.8	151.3	0.0	151.9	150.1	1.2	
	13歳	158.4	△ 0.8	159.7	156.2	2.2	154.4	0.2	155.0	153.6	0.8	
高等学校	14歳	164.7	0.3	165.1	163.2	1.5	155.6	△ 0.5	156.5	155.7	△ 0.1	
	15歳	167.1	△ 0.7	168.2	165.9	1.2	156.7	0.2	157.1	155.7	1.0	
	16歳	169.0	0.4	169.9	168.0	1.0	156.8	0.3	157.7	156.1	0.7	
	17歳	169.9	0.1	170.7	169.1	0.8	157.3	0.3	158.0	156.3	1.0	

(注) 1 □ は最大身長差のある年齢間を示す。

(注) 2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

イ 体 重

体重（平均値）は、女子7歳で調査実施以来の最高値となっています。

各年齢間の体重差をみると、男子は13歳～14歳で6.6kg、女子は11歳～12歳の5.3kgが最も大きくなっています。

親世代である30年前の昭和55年度調査と比べてみると、12歳男子で3.6kg、10歳女子で1.9kgと最も増加しています。

また、親世代との差は、女子に比べ男子の方が大きくなっています。（表2）

表2 年齢別体重の平均値

（単位：kg）

校種・年齢	男 子						女 子					
	平成22年度			昭和55年度			平成22年度			昭和55年度		
	A		全 国	B		全 国	A		全 国	B		
	広島県	前年差		広島県	(A-B)		広島県	前年差		広島県	(A-B)	
幼稚園	5歳	18.7	△ 0.2	19.0	18.9	△ 0.2	18.5	0.0	18.6	18.3	0.2	
小学校	6歳	21.4	△ 0.1	21.4	20.5	0.9	21.0	0.1	21.0	19.9	1.1	
	7歳	23.8	0.3	24.0	22.9	0.9	※23.7	0.5	23.5	22.6	1.1	
	8歳	26.7	△ 0.5	27.2	25.7	1.0	26.5	0.3	26.5	25.4	1.1	
	9歳	30.4	0.3	30.5	28.6	1.8	29.5	△ 0.4	30.0	28.1	1.4	
	10歳	33.9	0.4	34.1	32.1	1.8	34.0	△ 0.4	34.1	32.1	1.9	
	11歳	38.1	0.5	38.4	35.3	2.8	38.6	△ 0.3	39.0	37.2	1.4	
中学校	12歳	43.9	0.8	44.1	40.3	3.6	43.9	0.3	43.8	42.4	1.5	
	13歳	48.2	△ 0.4	49.2	46.2	2.0	47.0	0.2	47.3	46.2	0.8	
	14歳	54.8	1.3	54.4	52.1	2.7	49.9	△ 0.4	50.0	49.5	0.4	
高等学校	15歳	58.4	△ 0.2	59.5	55.5	2.9	51.2	△ 0.5	51.6	50.8	0.4	
	16歳	60.4	△ 0.1	61.5	58.5	1.9	51.9	△ 0.5	52.7	51.5	0.4	
	17歳	61.6	△ 1.1	63.1	60.3	1.3	52.7	△ 0.1	52.9	52.3	0.4	

（注）1 は最大体重差のある年齢間を示す。

（注）2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

ウ 座 高

座高（平均値）は、男子14歳で調査実施以来の最高値となっています。

各年齢間の座高差をみると、男子は13歳～14歳3.7cm、女子は9歳～10歳、10歳～11歳でそれぞれ3.5cmと最も大きくなっています。

親世代である30年前の昭和55年度調査と比べてみると、男子12歳で1.5cm、女子10歳で1.3cmと最も増加しています。（表3）

表3 年齢別座高の平均値

（単位：cm）

校種・年齢	男 子						女 子					
	平成22年度			昭和55年度			平成22年度			昭和55年度		
	A		全 国	B		全 国	A		全 国	B		
	広島県	前年差		広島県	(A-B)		広島県	前年差		広島県	(A-B)	
幼稚園	5歳	61.9	0.4	61.9	62.0	△ 0.1	61.6	0.3	61.5	61.4	0.2	
小学校	6歳	64.8	0.0	64.9	64.6	0.2	64.4	0.0	64.5	64.2	0.2	
	7歳	67.5	0.1	67.6	67.4	0.1	※67.5	0.5	67.3	66.9	0.6	
	8歳	70.0	△ 0.2	70.3	69.8	0.2	70.0	0.2	70.0	69.5	0.5	
	9歳	72.6	0.0	72.7	72.2	0.4	72.5	△ 0.2	72.7	71.9	0.6	
	10歳	75.0	0.2	74.9	74.3	0.7	76.0	0.1	75.9	74.7	1.3	
	11歳	77.6	0.2	77.6	76.5	1.1	※79.5	0.3	79.2	78.5	1.0	
中学校	12歳	81.0	0.1	81.3	79.5	1.5	82.1	0.0	82.1	81.5	0.6	
	13歳	84.3	△ 0.4	85.0	83.1	1.2	83.8	0.3	83.8	83.2	0.6	
	14歳	※88.0	0.3	88.1	86.8	1.2	84.6	0.0	84.8	84.6	0.0	
高等学校	15歳	90.0	△ 0.1	90.3	88.6	1.4	85.4	0.2	85.3	84.8	0.6	
	16歳	90.9	0.1	91.3	90.0	0.9	85.4	0.2	85.6	84.9	0.5	
	17歳	91.6	0.2	91.9	90.4	1.2	85.7	0.3	85.8	84.9	0.8	

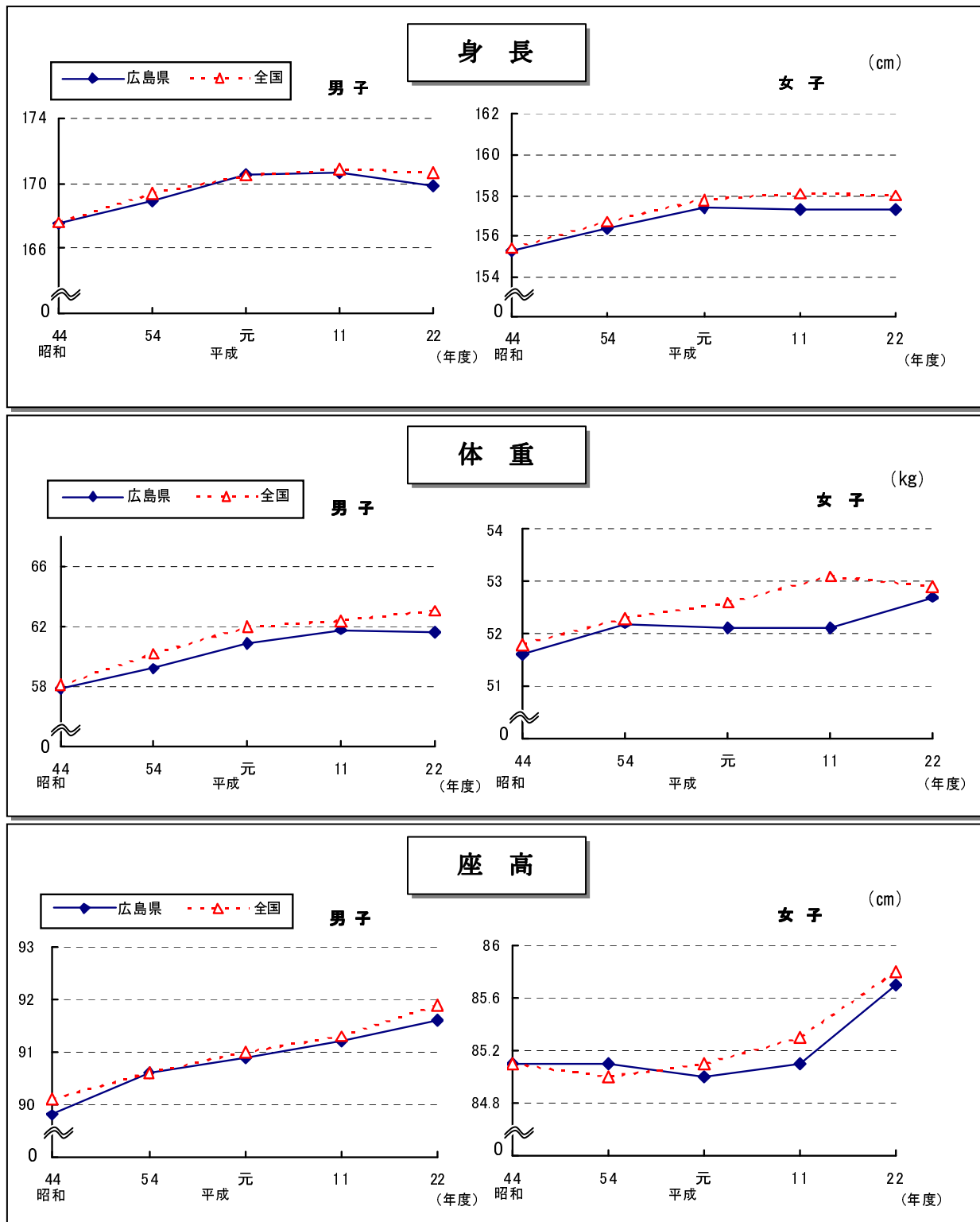
（注）1 は最大座高差のある年齢間を示す。

（注）2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

エ 17歳男女身長、体重、座高の平均値の推移

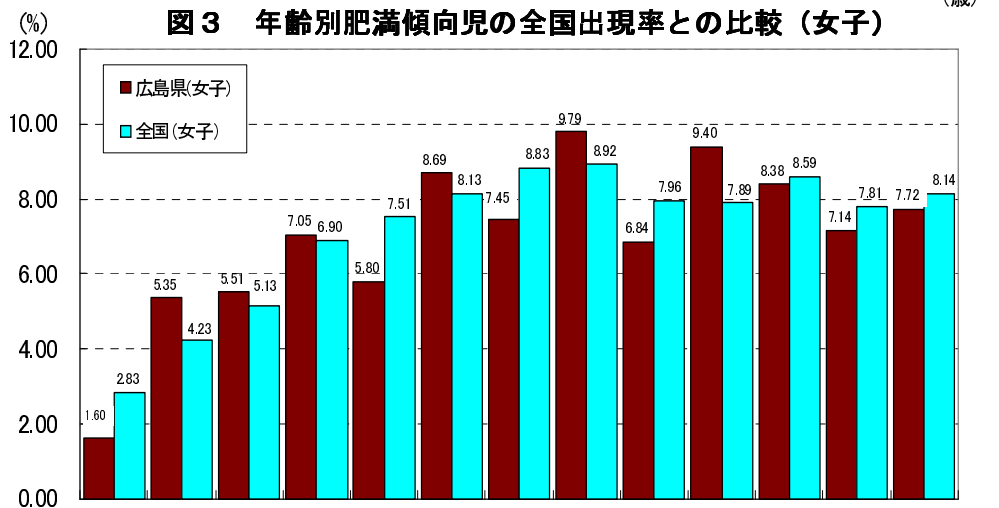
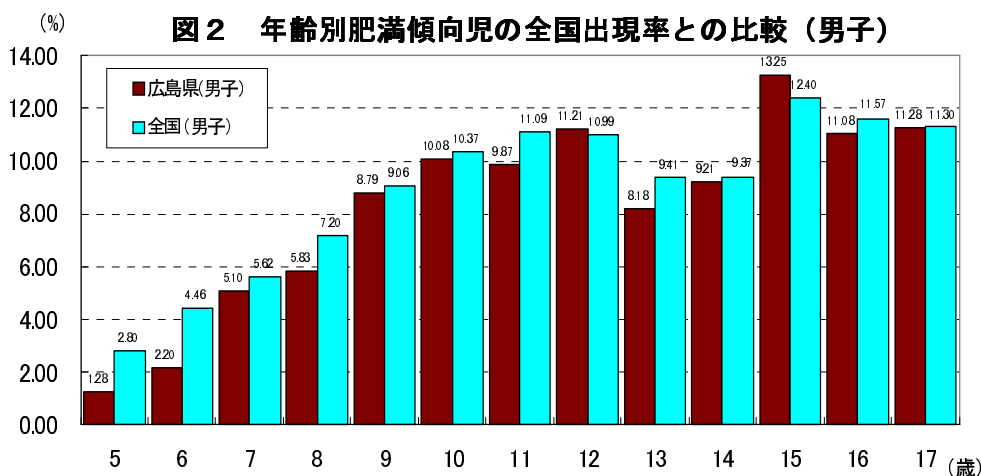
17歳男女における身長、体重、座高（平均値）の推移を昭和44年からみると、平成元年以降、男子身長を除くすべてにおいて、全国平均値を下回って推移している。

図12 17歳男女平均値の推移



オ 肥満傾向児の全国出現率との比較

肥満傾向児について、年齢別に全国出現率と比較してみると、男子については、12歳、15歳において、女子については、6～8歳、10歳、12歳、14歳において上回っており、年齢階級が上がることも出現率も上昇し、その後は横ばいになる傾向がある。(図2, 3)



(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。算式は、次のとおりである。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

身長別標準体重は、次表の身長別標準体重を求める係数表のa, bと実測身長により求める。

身長別標準体重 (キログラム) = a × 実測身長 (センチメートル) - b

身長別標準体重を求める係数表

年齢・係数	男子		女子	
	a	b	a	b
5歳	0.386	23.699	0.377	22.750
6歳	0.461	32.382	0.458	32.079
7歳	0.513	38.878	0.508	38.367
8歳	0.592	48.804	0.561	45.006
9歳	0.687	61.390	0.652	56.992
10歳	0.752	70.461	0.730	68.091
11歳	0.782	75.106	0.803	78.846
12歳	0.783	75.642	0.796	76.934
13歳	0.815	81.348	0.655	54.234
14歳	0.832	83.695	0.594	43.264
15歳	0.766	70.989	0.560	37.002
16歳	0.656	51.822	0.578	39.057
17歳	0.672	53.642	0.598	42.339

出典：財団法人日本学校保健会『児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版）』平成18年

(2) 健康状態調査

ア 主な疾病・異常の被患率順位

平成 22 年度の定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても「むし歯（う歯）」の者（処置歯完了者を含む。以下同じ）が1位となり、小学校及び中学校では次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」、「鼻・副鼻腔疾患」となっています。高等学校では「歯垢の状態」「歯肉の状態」が続いています。（表 4）

表 4 主な疾病・異常の被患率順位

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯(う歯)	39.5	むし歯(う歯)	52.9	むし歯(う歯)	40.6	むし歯(う歯)	53.9
2	鼻・副鼻腔疾患	4.8	裸眼視力1.0未満の者	27.7	裸眼視力1.0未満の者	36.4	歯垢の状態	6.7
3	アトピー性皮膚炎	3.4	鼻・副鼻腔疾患	11.4	鼻・副鼻腔疾患	8.5	歯肉の状態	6.4
4	ぜん息	2.3	眼の疾病・異常	5.1	眼の疾病・異常	5.8	鼻・副鼻腔疾患	6.3
5	歯列・咬合	2.2	その他の疾病・異常(歯・口腔)	4.6	歯垢の状態	3.8	眼の疾病・異常	5.8
6	耳疾患	1.9	耳疾患	3.8	歯列・咬合	3.7	歯列・咬合	4.1
7	その他の皮膚疾患	1.5	アトピー性皮膚炎	3.8	歯肉の状態	3.6	蛋白検出の者	3.1
8	眼の疾病・異常	1.3	歯垢の状態	3.6	蛋白検出の者	3.4	アトピー性皮膚炎	3.0
9	口腔咽喉頭疾患・異常	0.9	ぜん息	3.5	アトピー性皮膚炎	3.2	心電図異常	2.1
10	その他の疾病・異常	0.9	歯列・咬合	3.3	心電図異常	3.1	ぜん息	1.8

(注) 幼稚園、高等学校の「裸眼視力 1.0 未満の者」は、裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため、公表されていない。

イ 主な疾病・異常の推移

疾病・異常等の主なものについて、平成 18 年度から 22 年度までの推移をみると次のとおりです。むし歯（う歯）については、小学校及び中学校で顕著に低下しており、鼻・副鼻腔疾患については、幼稚園を除く各学校段階において横ばい傾向にあります。また、ぜん息及びアレルギー性皮膚炎については、全ての学校段階において横ばい傾向にあります。

表 5 主な疾病・異常等の推移

(単位：%)

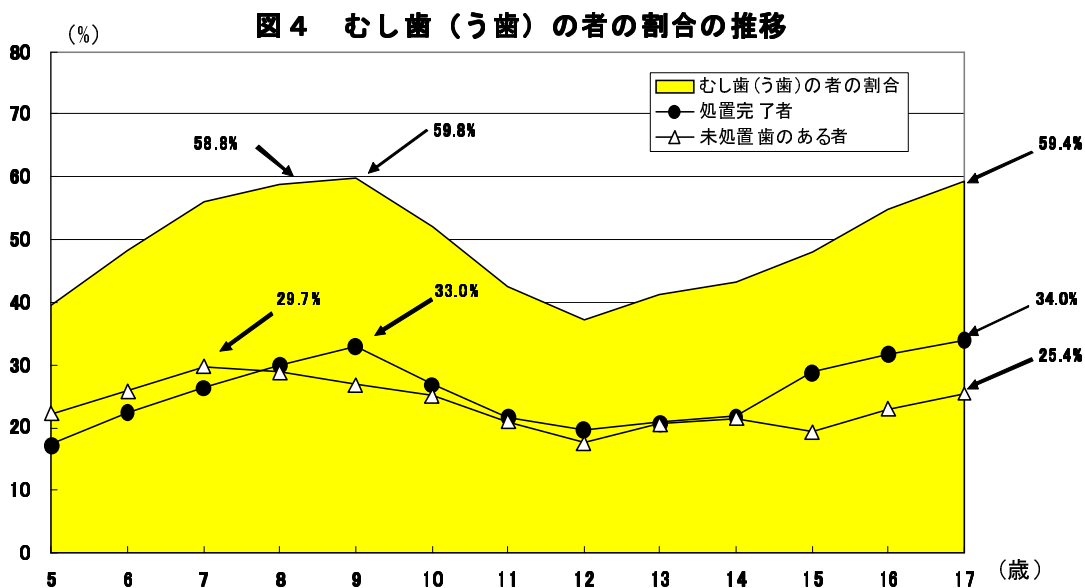
検査項目	幼稚園					小学校					中学校					高等学校				
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
むし歯(う歯)	39.1	45.4	47.1	43.2	39.5	63.7	61.9	60.3	58.8	52.9	52.8	47.6	46.3	45.2	40.6	65.2	57.2	61.1	55.2	53.9
裸眼視力1.0未満の者	X	X	16.4	X	X	27.2	25.9	28.4	28.7	27.7	X	36.9	X	X	36.4	X	X	X	X	X
鼻・副鼻腔疾患	8.2	5.8	5.0	8.8	4.8	12.3	11.4	9.8	12.1	11.4	9.7	9.8	7.9	8.6	8.5	8.3	8.5	7.9	10.0	6.3
眼の疾病・異常	4.1	3.2	3.3	3.4	1.3	6.6	6.6	5.6	6.4	5.1	5.3	5.3	4.4	5.4	5.8	4.5	3.5	5.3	5.0	5.8
耳疾患	3.0	1.3	2.3	5.0	1.9	3.7	3.5	3.0	4.1	3.8	2.8	3.7	2.3	2.7	2.7	2.0	1.6	1.8	2.7	1.6
ぜん息	1.9	2.3	1.5	2.0	2.3	3.2	4.3	3.3	4.1	3.5	2.3	3.2	2.9	2.7	1.5	1.2	1.4	1.1	1.6	1.8
歯列・咬合	0.5	2.7	0.9	2.1	2.2	4.3	4.1	3.8	2.6	3.3	4.6	5.1	5.4	5.0	3.7	4.2	3.7	5.6	3.5	4.1
心電図異常	2.3	2.1	2.1	2.4	2.9	3.4	3.1	3.3	3.9	3.1	4.8	2.2	2.6	2.9	2.1
アトピー性皮膚炎	4.0	2.6	3.6	3.3	3.4	4.6	3.9	3.2	3.4	3.8	3.1	4.0	3.2	3.3	3.2	2.4	2.5	2.8	2.2	3.0
蛋白検出の者	0.9	0.4	0.7	0.6	0.8	1.0	0.7	0.6	0.6	0.9	3.4	2.9	2.7	2.3	3.4	3.5	2.9	4.1	2.8	3.1
歯肉の状態	0.2	0.1	...	0.5	-	3.5	2.1	2.9	2.7	2.3	6.6	5.8	5.1	4.9	3.6	5.6	6.5	6.5	4.1	6.4
歯垢の状態	0.1	0.2	0.1	0.5	-	3.8	3.4	2.7	2.9	3.6	5.7	4.5	6.0	4.5	3.8	6.6	5.6	6.9	4.1	6.7
その他の皮膚疾患	1.6	0.4	1.4	1.0	1.5	0.4	0.5	0.7	0.4	0.6	0.2	0.2	0.3	0.3	0.5	0.3	0.1	0.2	0.2	0.2
口腔咽喉頭疾患・異常	0.8	1.9	0.5	0.3	0.9	1.3	1.7	1.7	1.6	0.8	0.6	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2	1.4	0.1

ウ むし歯（う歯）の状況

（1）年齢別の推移

平成22年度の「むし歯（う歯）」の者の割合は、幼稚園が39.5%、小学校52.9%、中学校40.6%、高等学校53.9%となっています。

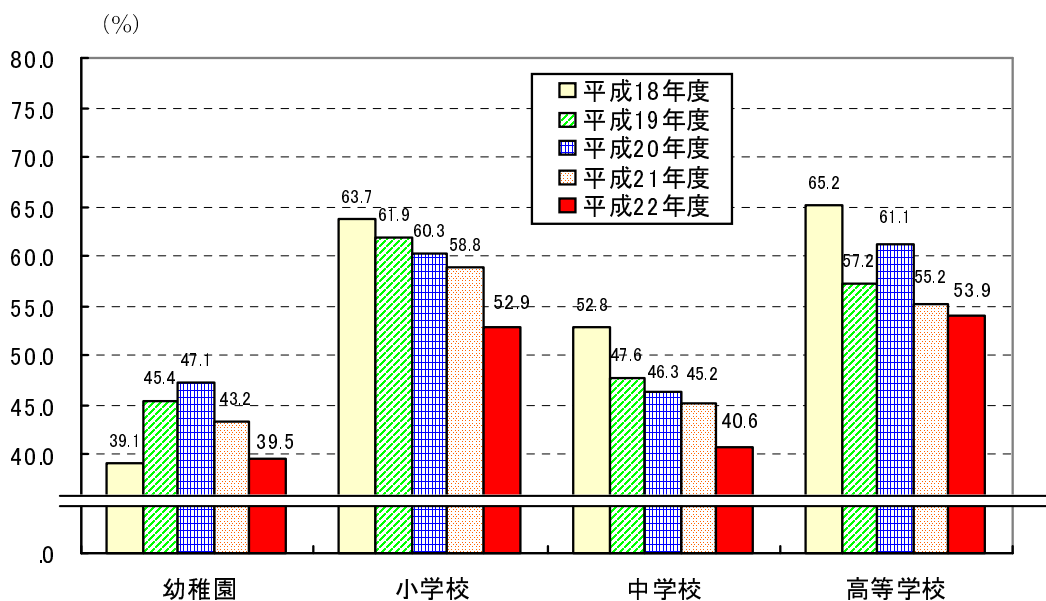
「むし歯（う歯）」の者の割合を年齢別にみると9歳が59.8%と最も高くなっています。また、処置完了者の割合は、8歳以降では未処置歯のある者の割合を上回っています。（図4）



（2）時系列の推移

「むし歯（う歯）」の者の割合の推移をみると、いずれの学校段階においても低下傾向にあります。（図5）

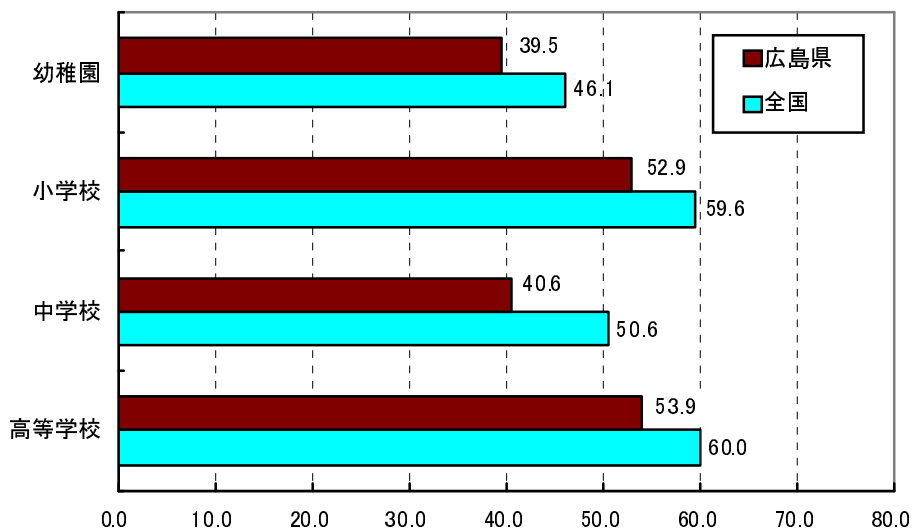
図5 むし歯（う歯）の者の割合の推移



(3) 全国との比較

また、全国と比較してみると「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても下回っており、特に中学校において全国を大きく下回っています。（図6）

図6 むし歯（う歯）の者の割合（全国との比較）



平成22年度学校保健統計調査速報については、広島県のホームページ統計情報「広島県の統計」に掲載していますので、ご覧ください。

ホームページアドレス <http://toukei.pref.hiroshima.lg.jp>

問い合わせ先

広島県企画振興局政策企画部統計課 消費経済・教育統計グループ

電話 082-513-2534（ダイヤルイン）